

「未踏」事業とは？
IPA(情報処理推進機構)が実施する、独創的なアイデアと技術を持つ個人を発掘、支援する事業。専門知識を持つプロジェクトマネージャー(PM)の指導や助言のもと、開発を進める。優秀なクリエータは「スーパークリエータ」に認定される。現在公募中である。

IT社会の「未踏」に挑む若者たち

Super Creator

「人々の幸福度の総和=仕事の成果」 この公式のもとにソフトを創造しています



ソフトイーサ 代表取締役会長
筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 博士課程

登大遊

2003年度 未踏スーパークリエータ認定

PROFILE

'84年生まれ。中学時代にC言語を習得、高校では校内のネットワーク管理者となり、大学1年で「SoftEther」を開発。後継の「PacketIX VPN 2.0」は現在、大手企業や官公庁をはじめ3000社以上に導入されている。

「調べることは楽しい、
これが行動の原動力」

登氏がIPAの「未踏」事業のユース部門に「SoftEther(ソフトイーサ)」の企画で応募したのは、まだ18歳だった大学1年のとき。既存システムより安く、高速で安全な秘匿通信を構築するアイデアが認められ、同公募に採択された。そして大学2年生で、未踏スーパークリエータの認定を受ける。

「必要は発明の母」ということだが、その陰にはネットワークに関する膨大で詳細な知識が必要だったはず。それについては「ものを調べることは楽しいですよ」とほほ笑む。登氏の原動力は、すべてここに集約されているようだ。

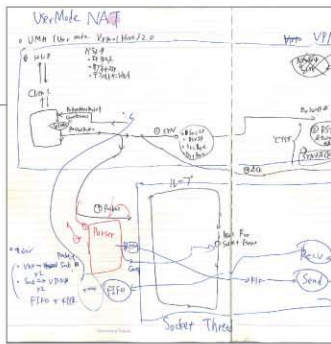
未踏により

開発期間を短縮
多くの人に知ってもらえた

手段を考えはじめました」。まさに「必要は発明の母」ということだが、その陰にはネットワークに関する膨大で詳細な知識が必要だったはず。それについては「ものを調べることは楽しいですよ」とほほ笑む。登氏の原動力は、すべてここに集約されているようだ。

発想の転換がビジネスを成功させた

「自由にはやらせていただけのがよかったです。未踏事業に資金を支援してもらったおかげで、資金調達のためにアルバイトなどすることなく開発に専念できました。また、資金運用の事務



登氏のSoftEther 開発メモ

筑波大学の校章入りノートに走り書きされたメモ。アイデアを練るときのポイント、登氏はこうアドバイスする。「物事を仮想化するとすべてうまくいきます。思考や情報のノイズを除去でき、有効なものだけが残ってくるのです」。LANのハードをソフトで仮想化した登氏らしい言葉だ。

「よい結果を出すためには、みんなの役に立つかどうかが重要。企業が儲かることもありますが、これは世界が公正に成績を評価してくれた結果なんです」

登氏の言葉で印象的なのは、人々の幸福度の総和と仕事の成果、という公式「ひとりの幸福度が少なくても世界中の人々が幸福になればいい。逆に、ひとりの幸福度が非常に高ければ、ユーザーは少なくてもかまいません」と笑顔で話してくれた。